

北九州切手のつどい 22 を終えて

橋本たねひろ

令和4年2月13日、新型コロナ蔓延防止期間中、北九州中央郵便局臨時出張所がなく、作品展示も小型印もない中、予定通り午前10時、北九州切手のつどい2022は当支部久米氏司会のもと、約40名の参加者を前に開会となった。

九州沖縄地方本部長村岡安廣氏の祝辞、挨拶では「困難な中つどいの開催に意義がある」との言葉をいただいた。

氏は伊藤氏の後を嗣いで2021年度上記本部長に就任、公的な場では収集家の前に初の顔見せとなった。

続いて、鹿児島支部長永吉氏による記念講演「シートで楽しむ戦後昭和の記念切手」が始まり、氏が調査したシートに様々な相違点があることを明らかにしたもので、大変参考になるものであった。

お楽しみ抽選会は、抽選者に大阪からの男性の助けを得て、盛り上がりを見せ、テーブルバザールは、3名の出店で人だかりが絶えず、紙付き切手掘り出し市にもそれなりの人を得たことは、主催者側として大きな喜びであった。

小郡、福岡、山口はもちろん、九州一円からも参加者があったことは、主催者としては大いに喜ばしいことであった。

例会も十分に開くこともできなかつた中、多くの支部会員の努力によって、つどいをまずまず成功裏に終えたことに紙面を借りて感謝申し上げるとともに、こういった機会に何かを得ていただければ幸いである。

今後の課題として暫減する参加者増対策と、予算削減又は収入増対策にあると考えられる。